

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03868

研究課題名（和文）ラーニング・ヘルスケアをめぐる医療倫理・公衆衛生倫理上の課題に関する研究

研究課題名（英文）Medical/public health ethics on Learning Healthcare System

研究代表者

井上 悠輔（Inoue, Yusuke）

東京大学・医科学研究所・准教授

研究者番号：30378658

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：ラーニングヘルスケア・システム論を検討することを通じて、まず従来の生命倫理学、とりわけ従来の研究倫理の枠組みには限界があること、公衆衛生倫理の視点を含めた議論が必要であることがわかった。また同じ論点を共有する諸先進国でどのような議論が展開されてきたか知る必要があること、古典的な議論の中にも参考になるような論点・蓄積がある可能性があること、これらを検討するために学際的な検討体制を組み集中的に議論する必要があること、とした点が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療・健康情報の集成的な利活用に注目が集まる中、医療現場や患者の生の情報を体系的に運用することを軸とした「ラーニング・ヘルスケア・システム」モデルが提唱され、注目を集めている。それは、知識生産（ラーニング）を医療と不可分の機能として位置づけ、実臨床で得られる情報の活用に改めて注目する。一方、このモデルの運用には、個人と集団の利益の対立といった、公衆衛生上の古典的な問題群を乗り越える可能性が含まれる点も注目される。これらの知見に基づき、医療ビッグデータ時代の新しい道徳的基盤を提案する。

研究成果の概要（英文）：Through the examination of Learning Healthcare System Theory, it has become evident that there are limitations within the framework of traditional bioethics, particularly conventional research ethics. It is clear that there is a need for discussions that incorporate the perspective of public health ethics. Furthermore, it is necessary to understand the discussions that have taken place in other advanced countries that share the same issues. There is a possibility that classical debates contain relevant points and accumulated knowledge that can serve as references. To thoroughly investigate these matters, it is crucial to establish an interdisciplinary framework for intensive deliberations.

研究分野：生命倫理学、公衆衛生学

キーワード：医療倫理 公衆衛生倫理 医療情報 プライバシー ラーニングヘルスケア・システム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

医療における知識・経験の蓄積と利活用について、これを体系的に整備・促進し、一方で極端な全体主義に至らないよう制御するには、どのような道徳的基盤が必要だろうか。こうした新たな医療・研究開発を支える道徳的基盤を検討するうえで、申請者らは従来の臨床倫理・研究倫理の限界に学びつつ、公衆衛生倫理の観点を加味した検討が不可欠であると考え。具体的には次のような問いがある。

1) ラーニング・ヘルスケアを支える、患者情報の収集・活用の基盤と、一人一人の市民との関係のあり方はどうあるべきか。例えば、Faden らの整理(2013)によれば、ラーニング・ヘルスケアを考える上で「医療格差の是正」「システムに貢献する患者の責務」などが重要となるが、これらはむしろ公衆衛生倫理の古典的な課題である。

2) 蓄積されたデータを誰がどのような基準で運用するべきだろうか。多機関にまたがる患者データセット、国民の多数に及ぶデータの運用、国境を越えて展開されるデータの運営は、どのような基準に沿ってなされるべきだろうか。データセット支配やフリーライダーをめぐる懸念など、公衆衛生倫理でも議論される公平さ・利益配分の議論が生じうる。

3) 問い直されるのは従来の臨床倫理・研究倫理だけではない。従来の公衆衛生倫理の議論自体も新たな次元に到達せねばならないのではないだろうか。医薬品の早期承認制度、プラグマティック・リサーチ、リアルワールドデータ活用など、従来の「研究」「臨床試験」が、人々の普段の医療行動を舞台として展開されることになる。集団の健康の向上という公衆衛生の課題を、臨床倫理・研究倫理の展開も加味した形で検討する必要が出てくる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ラーニング・ヘルスケアの倫理的課題について、従来の臨床倫理・研究倫理の限界点を指摘しつつ、これらとは異なる「第三の視点」としての公衆衛生倫理からの検討を加え、現在の倫理規範や関連制度に欠けている視点・論点を特定し、医療ビッグデータ時代の新しい道徳的基盤を提案することである。

「学術的独自性」

本研究の学術的な独自性として、以下の点が挙げられる。

1) 医療現場の知識・情報の活用について、従来の臨床倫理と研究倫理の限界を指摘する点

従来型の研究倫理における検討では、医療の知の展開という集団・世代間事業と個人の責任・権利という本質的な課題に迫れない。

2) 上記の限界を乗り越えるための第三の視点として公衆衛生倫理に着目する点

公衆衛生倫理の観点からラーニング・ヘルスケアを再検討する試みは、国内どころか、国際的にもユニークかつ先駆的なアプローチである。

3) 『リアルワールドデータ』= 生活の場への臨床研究の拡大として捉える点

単なる集団と個人といった二項対立を超えた、生活と知識生産とのあり方、そして知識生産への個人の参画のあり方を考える点に、従来の研究倫理にない特徴がある。

「創造性」

以下の点を成果目標として取り組む。こうした検討が可能となるよう、医学(医師)、公衆衛生学、生命・医療倫理学、哲学/倫理学の専門家などによる学際的なチームを組んだ。

1) 医療におけるビッグデータの利活用に新たな理論的基盤を提示する点

医療の研究開発に関するデータ基盤の整備が政策上進められているが、これを支える理論的基盤、倫理的

な正当化根拠についての省察に欠けている。本研究はこの空白を埋める。

2) 公衆衛生倫理と研究・臨床活動との新たな関係を提示する点

従来、研究・臨床活動と公衆衛生倫理とは別個の領域と位置付けられてきた。「ラーニング」をテーマとして、これらを横断する新たな生命倫理学のアプローチを提示できる。

3) 現在の研究開発政策（倫理指針を含む）・情報政策への提言を行う点

医療の公的性、個人の権利保護、そして国際間での公平・正義の観点から、研究開発の土台となる政策理念の再検討は焦眉の課題である。本研究の成果は、こうした政策課題の抽出および対応の方向性の明示につながる点で、議論に大きく貢献するものである。

3. 研究の方法

本研究は、医学（医師）、公衆衛生学、生命・医療倫理学、哲学／倫理学の専門家などによる学際的なチームにより展開される。「理論検討」を基軸としつつ、海外の有識者の助力を得ての「対話・議論」、最終的な「総括・政策提言」の段階を経る。「理論検討」では、上記の3つのテーマに沿って検討を行う。主たる手法は、過去の主張や政策文書などの文献研究（文献調査）である。「対話・議論」では、海外の研究者も含む、外部の有識者を交えた対話・議論の場を複数回設定し、活動の方向性を検証し、必要に応じて軌道修正するためのフィードバックを得る。最終年度は、これらをまとめると共に、政策提言として公表する。

4. 研究成果

初年度は、各研究者が、それまでの個別の検討テーマを土台としつつ、上記の検討目的に沿った成果を発表した。成果の主たる検討のひとつは、情報の利活用に関する「オプトアウト」の批判的検討である。これは、患者に由来する個人情報、従来の治療を評価したり、新たな治療法を研究開発したりする目的で用いる際の患者の拒否機会の確保をテーマとしている。国の倫理指針では「研究対象者等に通知又は公開し、研究が実施又は継続されることについて、研究対象者等が拒否できる機会を保障する方法」と表現されるが、この手続きをめぐって最近いくつかの議論が起きている。この点について、次の三つの構成で進めた。最初に、医療情報のオプトアウトについて、従来の研究開発の文脈で用いられてきた議論を簡潔に振り返った。次に、オプトアウトがどのように機能しているか、一般市民や医療者向けの調査結果を紹介しつつ、オプトアウトが実態と乖離して運用している可能性を指摘した。最後に、オプトアウト自体の倫理問題に触れつつ、現在の課題と今後の展望を検討した。その他、各分担研究者により、データの利活用と共有をめぐる観点から、製薬業界による個人情報の利活用に関する市民調査、バイオバンクをめぐる「トラスト」「カストディアンシップ」をめぐる議論、患者への説明や連携のあり方をめぐる成果が示された。

2年度目に当たる令和2年度は、各研究者が、それまでの個別の検討テーマを土台としつつ、上記の検討目的に沿った成果を発表する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、大きな影響を受けた。成果の主たる検討のひとつは、「ラーニング・ヘルスケア・システム」の思想面をまとめた、本邦で初めての入門・概説の文書を刊行したことである（「ラーニング・ヘルスケア・システムの思想：“進化し続ける医療”を支える道德規範をめぐる議論」、医学のあゆみ 276(9) 871-875、2021年）。2000年代後半以降米国では医療現場や患者の生の情報を体系的に運用することを軸とした“ラーニング・ヘルスケア・システム”モデルが提唱され、注目を集めている。知識生産(learning)を医療本来の活動のひとつとして位置づけ、実臨床で得られる情報の活用と現場への成果の還元をめぐり、医療者および患者などの役割再編を主張する。筆者らは、この指摘には従来の“倫理審査”批判以上の意味があると考え、診療情報の利活用をめぐる個人と集団の利益の対立をどう乗り越えるか。個人医療情報の保護と活用を支える、次世代の倫理的基盤に向けた議論のヒントがあるかもしれない。

その他、各分担研究者により、研究活動中に生じた副次的な初見への対応、この間の新型コロナウイルス

感染症に触発された検討をめぐる重要な成果が示された。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けることとなったが、各研究者がそれまでの個別の検討テーマを土台としつつ、最終年度として成果をまとめることとした。この間の議論を発展させた成果として、公衆衛生倫理に関する原則・主な価値について、主な論客による提案を手掛かりに整理する作業（井上、口頭発表、日本公衆衛生学会第81回総会 2022年10月8日）公衆衛生・研究倫理に深くかかわる、個人情報保護法改正と研究倫理指針の改正の論評がある（井上、年報医事法学(37) 212-217 2022年9月）。同じく、情報・試料の活用をめぐるカスタディアンシップをめぐる研究成果も刊行された（山本ら、臨床薬理 53(4) 147-154 2022年8月）。どちらも個人と公的な取り組むとを架橋するインフラ形成をめぐる議論であり、また「個人選択」の濫用への問題提起をなすものである。一方、ラーニング・ヘルスケア・システムの検討は、有識者間の議論、専門職の取り組みのみでは限界もあり、社会への周知やPPIを含めた市民・患者の発案も含めたボトムアップなアプローチが求められることも認識された。残念ながら、現行の“オプトアウト”は消極的な姿勢でしかなく、改良も待たれる。この点について、オプトアウトについての人々の受け止めと問題意識に関するヒアリング調査の結果をまとめ、投稿に至った。また、この研究の議論を発展的に展開すべく、「疫学倫理」に関する単行本の翻訳作業も開始した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Inoue Yusuke	4. 巻 10
2. 論文標題 Relationship Between High Organ Donation Rates and COVID-19 Vaccination Coverage	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 online only
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpubh.2022.855051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kitabayashi Aki, Inoue Yusuke	4. 巻 in press
2. 論文標題 Factors that Lead to Stagnation in Direct Patient Reporting of Adverse Drug Reactions: An Opinion Survey of the General Public and Physicians in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Therapeutic Innovation & Regulatory Science	6. 最初と最後の頁 online only
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s43441-022-00397-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 40(4)
2. 論文標題 死後の試料・データを用いる研究活動と倫理：今日のルールと今後の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 466-471
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松井健志, 高井ゆと里, 山本 圭一郎, 井上悠輔	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 ベルモント・レポートを超えて 生殖補助医療/技術に関する臨床研究の倫理課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 20-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 (36)
2. 論文標題 感染症予防と「国民の責務」規定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北林アキ, 井上悠輔	4. 巻 52(4)
2. 論文標題 患者・市民からの医薬品副作用報告に関する制度の現状と課題：欧州の状況との比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床薬理	6. 最初と最後の頁 117-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3999/jscpt.52.117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Yusuke, Okita Taketoshi	4. 巻 31(7)
2. 論文標題 Coronavirus Disease and the Shared Emotion of Blaming Others: Reviewing Media Opinion Polls During the Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 453-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20210169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsui Kenji, Inoue Yusuke, Yamamoto Keiichiro	4. 巻 43
2. 論文標題 SARS CoV 2 Human Challenge Trials: Rethinking the Recruitment of Healthy Young Adults First	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ethics & Human Research	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/eahr.500089	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakazawa Eisuke, Yamamoto Keiichiro, London Alex John, Akabayashi Akira	4. 巻 22(89)
2. 論文標題 Solitary death and new lifestyles during and after COVID-19: wearable devices and public health ethics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Medical Ethics	6. 最初と最後の頁 online only
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12910-021-00657-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsui Kenji, Inoue Yusuke, Yamamoto Keiichiro	4. 巻 31(9)
2. 論文標題 Rethinking the Current Older-people-first Policy for COVID-19 Vaccination in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 518 ~ 519
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20210263	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kon Alexander, Yamamoto Keiichiro, Nakazawa Eisuke, Ozeki-Hayashi Reina, Akabayashi Akira	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 An American's Experience with End-of-Life Care in Japan: Comparing Brain Death, Limiting and Withdrawing Life-Prolonging Interventions, and Healthcare Ethics Consultation Practices in Japan and the United States	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Narrative Inquiry in Bioethics	6. 最初と最後の頁 online only
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/nib.0.0022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsui Kenji, Yamamoto Keiichiro, Tashiro Shimon, Ibuki Tomohide	4. 巻 22(168)
2. 論文標題 A systematic approach to the disclosure of genomic findings in clinical practice and research: a proposed framework with colored matrix and decision-making pathways	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Medical Ethics	6. 最初と最後の頁 online only
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12910-021-00738-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ibuki Tomohide, Yamamoto Keiichiro, Matsui Kenji	4. 巻 22(3)
2. 論文標題 The Fetus as a Research Subject	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The American Journal of Bioethics	6. 最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15265161.2022.2027556	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔, 松井健志, 山本圭一郎	4. 巻 276(9)
2. 論文標題 ラーニング・ヘルスケア・システムの思想: “進化し続ける医療”を支える道徳規範をめぐる議論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 871-875
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 35
2. 論文標題 「オンライン診療」をめぐる議論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Matsui, Keiichiro Yamamoto, Yusuke Inoue	4. 巻 30(9)
2. 論文標題 Professional Commitment to Ethical Discussions Needed From Epidemiologists in the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 375-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200278	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomohide Ibuki, Keiichiro Yamamoto, Kenji Matsui	4. 巻 11(3)
2. 論文標題 Differences in Conceptual Understanding of the “Actionability” of Incidental Findings and the Resultant Difference in Ethical Responsibility: An Empirical Study in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AJOB Empirical Bioethics	6. 最初と最後の頁 187-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/23294515.2020.1784308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakada H, Takashima K	4. 巻 8(8)
2. 論文標題 Where Can Patients Obtain Information on the Pre-Approval Access Pathway to Investigational Treatment in Japan?-A Survey of Patient Advocacy Organizations' Websites.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical Pharmacology in Drug Development	6. 最初と最後の頁 978-983
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cpdd.745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高島響子, 東島仁, 鎌谷洋一郎, 川嶋実苗, 谷内田真一, 三木義男, 武藤香織	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 研究で用いたゲノムデータの共有に関する患者・市民の期待と懸念: 研究者との対話を通じた試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川玲子, 高島響子, 池田真理子, 徳富智明, 河村理恵, 佐々木規子, 山本佳世乃, 中谷中, 鈴森伸宏, 古庄知己	4. 巻 40
2. 論文標題 出生前羊水染色体検介におけるロバートソン転座の症例報告をめぐる～医療倫理の四原則の対立状況とゲノム情報の伝達プロセスの観点からの考察～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本遺伝カウンセリング学会誌	6. 最初と最後の頁 211-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okita T, Enzo A, Kadooka Y, Tanaka M, Asai A	4. 巻 なし
2. 論文標題 The controversy on HPV vaccination in Japan: Criticism of the ethical validity of the arguments for the suspension of the proactive recommendation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Health Policy	6. 最初と最後の頁 199-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.healthpol.2019.12.011.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大北全俊, 井上洋士, 山口正純, 白阪琢磨	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 Undetectable=Untransmittable (U=U) とは何か: 「ゼロ」の論理について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本エイズ学会誌	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 78(11)
2. 論文標題 患者情報の利活用と同意の限界 「オプトアウト」をどう考えるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 病院	6. 最初と最後の頁 831-836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1541211079	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakada H, Inoue Y, Yamamoto K, Matsui K, Ikka T, Tashiro S	4. 巻 なし
2. 論文標題 Public Attitudes Toward the Secondary Uses of Patient Records for Pharmaceutical Companies' Activities in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Therapeutic innovation & regulatory science	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2168479019872143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 17
2. 論文標題 人試料を用いる科学研究 バイオバンクと「約束」のあり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 156-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24646/jnlsts.17.0_156	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 先制医療：研究の倫理と社会の連帯
3. 学会等名 日本衛生学会第92回学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 個人情報と「進化し続ける医療」を支える倫理
3. 学会等名 第41回医療情報学連合大会・第22回日本医療情報学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本圭一郎, 松井健志, 河村裕樹, 高井ゆと里, 鈴木将平, 渡部沙織
2. 発表標題 希少難治性疾患のELSIの現在
3. 学会等名 日本生命倫理学会第33回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高島響子, 荒川玲子, 山本圭一郎
2. 発表標題 希少難治性疾患の治療研究・開発におけるELSIー治療薬ゾルゲンスマを事例に考えるー
3. 学会等名 日本生命倫理学会第33回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友常雅子, 中本貴之, 宮部恵, 永淵七奈子, 鈴木健夫, 松井健志, 栗山猛
2. 発表標題 中学生の一般市民参画によるアセント文書のレビューに参加した時の参加者の思い
3. 学会等名 第21回CRCと臨床試験のあり方を考える会議
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 感染症対策とその根拠となる法規範についての倫理的検討
3. 学会等名 第74回関西倫理学会大会 感染症とパンデミック（シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 自粛・行動変容と統治
3. 学会等名 日本法哲学会2021年学術大会 感染症の統治を再考する（ワークショップ）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 研究開発の倫理と個人（故人）への配慮
3. 学会等名 臨床医学・外科解剖セミナー（北海道大学・千葉大学）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 Research ethics of the socially "vulnerable" people（被爆者試料研究の倫理）
3. 学会等名 放射線影響研究所 International Workshop (ELSI workshop toward RERF future genome studies on atomic bomb survivors and their children)（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上悠輔, 小門穂
2. 発表標題 研究倫理審査と感染症流行の「緊急事態」：海外の主な検討を題材に
3. 学会等名 第32回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 研究倫理コンサルタント養成に向けた教材の検討
3. 学会等名 第41回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 感染症法と市民：関連法規の展開
3. 学会等名 日本医事法学会第50回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Alexander Kon, Thaddeus Mason Pope, Robert Truog, Keiichiro Yamamoto
2. 発表標題 Current Ethical and Legal Issues in Brain Death in Our Pluralistic World
3. 学会等名 22nd ASBH Annual Bioethics Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小島和男, 高島明彦, 阿形清和, 柳茂, 佐藤岳詩, 山本圭一郎
2. 発表標題 第27回生命科学シンポジウム「超高齢社会を考える4」超高齢社会を支える技術と倫理
3. 学会等名 第8回学習院大学ブランディング・シンポジウム(第27回生命科学シンポジウム)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 「公衆衛生の倫理」とは何か
3. 学会等名 第11回九州医学哲学・倫理学会学術大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 患者遺伝情報に対する家族アプローチによる守秘義務の再考
3. 学会等名 日本生命倫理学会第31回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 高リスク未発症者に対する倫理的課題
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会, シンポジウム3 遺伝性腫瘍 当事者の意思決定から先制医療に向けた提言
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東島仁, 和田瀧裕之, 三浦優生, 桑名亜紀, 高島響子
2. 発表標題 自閉スペクトラム症をめぐる科学を題材とする疾患当事者間ならびに研究者との対話の試み
3. 学会等名 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺基子, 高島響子, 川島亜紀子, 三宅秀彦
2. 発表標題 遺伝性疾患のある子どもの父親に関する理解のための試み
3. 学会等名 臨床遺伝2019 in Sapporo (第43回日本遺伝カウンセリング学会・第26回日本遺伝子診療学会 合同学術集会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 改めてU=Uとは何か（シンポジウム「U=U時代の「性の健康」、日本におけるコンビネーションHIV予防を考える」）
3. 学会等名 第33回日本エイズ学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 教育講演 8 「医療に求められる倫理について」
3. 学会等名 第28回日本形成外科学会基礎学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大北全俊
2. 発表標題 倫理講習会「医学研究に求められる倫理」
3. 学会等名 第48回日本IVR学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 研究倫理とアイヌ研究の今後
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大北全俊（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 369
3. 書名 『新型コロナウイルス感染症と人類学』新型コロナウイルス感染症：行動変容というリスク・マネジメントと責任	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高島 響子 (Takashima Kyoko) (10735749)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局 等・上級研究員 (82610)	
研究 分担者	山本 圭一郎 (Yamamoto Keiichiro) (50633591)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・臨床研究セン ター・臨床研究統括部生命倫理研究室 室長 (82610)	
研究 分担者	松井 健志 (Matsui Kenji) (60431764)	国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策研究所・ 部長 (82606)	
研究 分担者	大北 全俊 (Okita Taketoshi) (70437325)	東北大学・医学系研究科・准教授 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------